

平成29年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

1 頁

1. 事務事業の概要

完了 評価対象 行計対象

事務事業名 (中事業)	27122 表現のプロの技を学ぼう事業				
基本政策	03 ところ豊かな人が育ち、いきいきと活躍できるまち				
政策	01 人間力を培う学校教育				
施策	02 生きる力をはぐくむ学習の展開				
実施形態	直営				
事業期間	単年度	平成28年度～			
要求区分	新規	予算区分	政策		
事業の実施を市に義務づける国の法令					
有無	なし				
法令名 条項					
予算科目	01-100103-210100				
部名	50 教育委員会	課名	03 学校教育課		
課長名	竹内 誠	T E L	0795-22-3111	内線	526

2. 対象・目的・内容

事業概要	プロの劇団員による表現力向上ワークショップを実施する。
事業の対象 (誰・何を)	市内小学校5年生の児童
事業の目的 (どういう状態にするために)	児童(小5)の表現力の向上を図るとともに、コミュニケーション力や生きる力の基礎を培う。
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	体育館で、プロの劇団員とともに体を動かしながら合意形成をする。個人のプログラムから、二人組、三人組、クラス全体へと人数を増やしていき、劇団員の指示をうけて様々な表現を楽しむ。劇団員から見せ方のポイント、工夫について助言を受け、表現すること(伝えること)と、受け取ることの両方の大切さを学ぶ時間とする。平成29年度は発声に関する表現体験を取り入れた。

3. 年度別事業費

(単位:千円)

	事業費							
	国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源	
平成26年度決算額	0	-	-	-	-	-	-	-
平成27年度決算額	0	-	-	-	-	-	-	-
平成28年度決算額	540	0	0	0	0	540	0	
平成29年度予算額	540	0	0	0	0	540	0	

4. 総コストの概算

(単位:千円)

平成28年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成28年度決算額(B)	総コスト(A)+(B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.10	0.00	0.10	780	540	1,320
事業費の主な用途		報償費			

平成29年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指 標 名	ワークショップ開催回数				単 位	回
	説 明 や 数 式	市内8小学校（5年生）を対象に、「表現のプロ」特別授業を開催する。					
	年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	目 標 値			11	11		
	実 績 値		11				
	経 費（千円）		1,320				
単 位 当 た り の コ ス ト		120					
活動 指標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費（千円）						
単 位 当 た り の コ ス ト							
成 果 指 標 ①	指 標 名	ワークショップに参加し表現のプロの授業を受けた児童数				単 位	人
	説 明 や 数 式	市内の小学校5年生を対象に表現のプロの技を学ぼう事業を実施しており、そこで学んだことを授業等での表現活動に活かす。					
	年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	目 標 値			347	341		
	実 績 値		321				
	経 費（千円）		1,320				
単 位 当 た り の コ ス ト		4.11					
成 果 指 標 ②	指 標 名					単 位	
	説 明 や 数 式						
	年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	目 標 値						
	実 績 値						
	経 費（千円）						
単 位 当 た り の コ ス ト							
実 績・成 果 等 の 説 明	<p>開催1回当たり54,000円（講師人当たり18,000円×3人）、年間10回程度開催。 児童の感想より一部抜粋：劇団員の人の表現力がすごかった。「こんにちは」と言っただけなのにととてもすごくて、これを表現というのだと思った。 総合評価：このプログラムを通して、児童の表現を身につけさせるとともに、コミュニケーションの楽しさや喜びを味わえることができた。また、教職員も表現力の重要性を再認識する機会となった。</p>						

6. 評価

1 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	1	実施主体の妥当性	5
		直接のサービスの相手方	2	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5
	事 業 の 総 合 評 価	継続実施					
説 明	事業導入理由：子どもたちの表現力向上を図るとともに、コミュニケーション力や生きる力の基礎を養うことを目的として、プロの劇団員に依頼し、ワークショップを開催している。主体的に学び、自己を表現する力を育てる事業として、目標を達成できている。少しずつプログラムを改善しながら、さらに学級づくりに表現力事業を取り入れ、充実させていく。						
2 次 評 価	評 価 ポ イ ン ト	事業の優先度(緊急性)	3	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	5
		直接のサービスの相手方	2	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	5
	事 業 の 総 合 評 価	継続実施					
説 明	プロの劇団による指導は、子どもたちにとって刺激的で、大変良い経験だったと思われる。コミュニケーションでは相手に「何を話したか」ではなく「どう伝わったか」が重要であり、伝えることの大切さを学びきっかけとなる本事業は継続して実施することが望ましいと考える。なお、受講する児童は小学5年生が対象で一度限りであることから、普段の授業での発表等を通じて教職員による継続的な指導をお願いしたい。また、限られた経営資源を投入する中で、施策における本事業の優先度も是非検討していただきたい。						